

平成 28 年度 第 2 回福井市行政改革推進委員会 会議概要

- 1 開催日時 平成 28 年 8 月 18 日（木）14:00～15:50
- 2 開催場所 市役所本館 8 階 第 1 委員会室
- 3 出席者
- (1) 委員 内山秀樹 委員（委員長）、田村洋子 委員（副委員長）、井上武史 委員、
奥村清治 委員、黒川俊枝 委員、齋藤万世 委員、澁谷政子 委員、
辻武志 委員、林美里 委員、山岸範之 委員
- (2) 事務局 総合政策課

4 会議次第

- ・ 開会（市民憲章唱和）
- ・ 協議 (1) 外部点検の総括について
(2) 事務事業点検（外部点検）の今後について
(3) その他 平成 28 年度第 3 回行政改革推進委員会の日時について
- ・ 閉会

5 協議の概要

委員長	<p>協議事項 (1) 外部点検の総括について 資料 1</p> <p>今日の委員会では、外部点検のこれまでの 5 年間の総括をすることとなる。過去の点検事業について、細かい指摘をするのではなく、外部点検のやり方が適当だったのかどうかなど、次年度以降に向けてどうするのかという観点で意見をもらいたい。</p> <p>事務局の判断した取組評価について、「◎」や「△」となった基準が分かりにくいいため、強調して説明してほしい。</p>
事務局	<p>「◎」の 1 つ目、No. 5 「テレビ・ラジオ広報事業」について、予算を大きく削減しており、点検時の改善点・要望について全て取り組んでいることから、「◎」の取組評価とした。</p> <p>「◎」の 2 つ目、No. 31 「養浩館茶席サービス事業」について、事業費を市の収入となる茶席料でまかなえており、点検時の改善点・要望について全て取り組んでいることから、「◎」の取組評価とした。</p> <p>「◎」の 3 つ目、No. 49 「ボトル水販売・宣伝啓蒙事業」について、製造本数を大幅に増やしており、点検時の改善点・要望である福井市の PR にもラベルの活用によって積極的に取り組んでいることから、「◎」の取組評価とした。</p> <p>「○」の取組評価とした事業については、改善点・要望に対する取組が全てきっちりとは実施されておらず、「◎」と評価した事業に比べると取組が弱いもの</p>

	<p>である。</p> <p>「△」の1つ目、No.12「生活安全活動支援事業」について、事務局としては、若い人を活動に取り込むという観点が改善点・要望であると捉えたが、実際にはその取組が不十分であり、また、その他の取組も弱いということで、「△」の取組評価とした。</p> <p>「△」の2つ目、No.39「地域特産物振興事業」について、「縮小」という点検結果と逆行しているが、農家の若返りなど事業の改善は進められているため、「△」の取組評価とした。</p> <p>「△」の3つ目、No.43「中央卸売市場活性化事業」について、点検結果とは異なる方向性になっているが、国の方針に基づいて取り組んでおり、一般市民の利用により活性化しているため、「△」の取組評価とした。</p> <p>委員長からもあったように、外部点検について、今後、行政改革の中でどのように取り組んでいくのかを考えていくため、大きなところでの意見をいただきたい。</p>
委員長	<p>事業の細かい説明はあったが、意見は外部点検そのもののことなど、大きなところでお願いしたい。ただいまの説明に対し、意見、質問等はないか。</p>
委員	<p>No.43「中央卸売市場活性化事業」について、一般市民としては、業者が増え、取引が多くなることを活性化と捉える。しかし、事業として、市場フェスタなど市民参画を増やしているが、市は活性化というものをどのように捉えているのか。</p>
事務局	<p>市場の活性化について、点検当時、委員と説明側の意見が若干噛み合っておらず、十分に説明し切れていない印象を事務局も持っている。市民に対して市場を開くことが活性化なのかという指摘は当時もあったが、福井サーモンのPRなど、市場の良さを消費者に分かってもらい、消費を拡大することで取り扱いが増え、活性化につなげるという思いが説明者側にはあったと考えられる。</p>
委員長	<p>今の事務局の説明は、国が策定した卸売市場整備基本方針の中で記してある「食」に関する卸売市場の知見を消費者に効果的に提供するという観点のことであり、それを十分に説明し切れていなかったのではないかと考えられる。</p>
委員	<p>点検時、大方の委員は卸売市場の目的とは福井で採れた産物を出来るだけたくさん提供することではないかという指摘をした。市民を市場に入れ、交流することが卸売市場の役割ではないという意見だった。国の方針もあり分かりづらくなってしまったが、福井で採れた産物を出来るだけ安価でたくさん提供するような取組を広げてほしいというのが委員からの意見であった。</p> <p>取組評価は、市総合政策課として行った評価であるか。</p>
事務局	<p>その通りである。</p>

委員	例えば、No.1「景観推進事業」について、取組評価は「○」としているが、「○」でいいのか。総括を全体的に見ても、「○」の評価が甘いのではないかと思う。
委員	No.1「景観推進事業」の景観賞を受賞した建物について、実際にその場所に行ったら、建物の周辺の景観が良くなかった。写真では、建物だけが綺麗に写っており、これでは景観向上にならないのではないかと思った場所がいくつもあった。そのような点を指導してもらい、遠くから見ても全体として良い景観になっているところにスポットを当ててもらわないと納得いかない。
委員長	「○」の評価が甘いのではないかという指摘があったが、物事の分布については正規分布で見るのが一般的である。「◎」が3つ、「△」が3つとなっているのは、確かにゆるいと考えられる。課題として、次の5年間の総括をする際は、事務局として評価の基準をしっかり作っておく必要がある。
委員	No.5「テレビ・ラジオ広報事業」について、一つひとつの番組の金額が大きいと思う。民放テレビ広報の単体番組各6本というのは、年間の本数であるのか。
事務局	その通りである。
委員	行政情報のチャンネルについて、毎週定時での放送をしていればチェック出来るかもしれないが、民放で年間に各6本しかない番組を、市民はチェックしてくれるのか。
委員長	放映が6回しかないということなのか。それであれば、委員の意見はもっともである。
委員	市政広報であれば、月2回発行されていて、市民は見ると思うが、2ヶ月に1回の番組を市民はチェックしないのではないか。したがって、他にお金をかけた方がいいのではないかと思う。You Tube やふくチャンネルをより活用してはどうか。
委員長	民放で作った番組はケーブルテレビで再放送されている。民放番組の制作にはどうしてもお金がかかってしまう。
委員	「△」の評価になった事業は、この総括後、そのまましておくのか。No.39「地域特産物振興事業」について、委員全員が見直しを考えていたのに点検次年度に拡大しており、納得出来ていない。金福すいかは、ブランド化といいながら、店頭で貧弱な品が数百円で売っているものもあるようだ。良品は木箱に入って数千円で扱われているが、どれくらい良品の生産率が上がっているのか分からない。No.43「中央卸売市場活性化事業」も同様であり、今回の報告を受けて、そ

	<p>れで終わりなのか。</p>
事務局	<p>今回の「△」評価は、あくまでも事務局での評価であり、それに基づいて今後予算措置などの手続きを行う予定はない。基本的に今回の総括は、今までの取組に対して、次にどうつなげていくのかというものであり、各事業についてさらに変えていくということは今のところない。</p> <p>金福すいかについては、台湾にも販路を拡大しており、福井市としてブランド化について取り組んでいるのが現状である。</p>
委員	<p>ひび割れたような品は、市場に出ないようにした方がよい。農家に伝えるなどの対応は出来ないか。そうしないと、いくら福井市としてブランド化と言いつつも、貧弱な品が出回っていると何にもならない。そのような意見は言ってもよいのか。</p>
事務局	<p>そのような意見は担当所属に伝える。</p>
委員長	<p>総括の事務局の評価は、担当所属に伝わっているのか。</p>
事務局	<p>伝わっている。しかし、その評価を踏まえて、来年度予算や事業内容について対応することまで求めているものではない。</p> <p>冒頭の委員長からのお話でもあったとおり、今までの取組全体を外部点検するということである。今ほどの指摘内容については、本当に投資効果があるのかというものだと思うが、ではその見える化をどのようにしていくかということ、次の外部点検に対する意見として受け止めたい。</p>
委員長	<p>「△」の評価については、委員も同じ認識であり、それをそのままにするのかということは、外部点検のシステムとして考えなければならない。</p>
事務局	<p>本日の委員からの意見については、しっかり担当所属に伝える。</p>
委員	<p>今回の取組評価は、各事業の取組に影響を与えないということだが、事業の予算措置にリンクしないと意味がないのではないか。</p>
事務局	<p>平成 23 年度からの外部点検事業については、点検実施時にはその結果を踏まえて、次年度予算に反映出来るものは取り入れている。今回、取組評価で「△」となった事業についても、点検次年度の予算査定で点検結果を踏まえている。しかし、委員の意見に対して、市全体の政策という観点で引き続き取り組んでいる事業もあり、委員の意見が反映されていない部分もあるが、外部点検の結果自体は、予算査定の中でも重きを置いている。</p>
委員	<p>今後、今まで点検を受けた上で違和感のある事業は再度点検するということも</p>

事務局	<p>あり得るのか。例えば、取組評価「△」や、「○」でも評価が甘い事業を対象にすることも考えられるのか。</p> <p>そういったこともあり得る。今までのように、小さな単位で事業を見ていくの がいいのか、大きな目線で見えていくのがより分かりやすいのかといった意見もあ ると思うが、小さな単位で事業を見ていくと、年度を跨いで同じような事業を対 象としてしまうこともある。今後の点検では取組評価が「△」となった事業を対 象に盛り込みつつ、外部点検を行っていく手法もある。</p>
委員長	<p>点検事業を、どこまでの範囲で対象とするのか。政策として、一括りの範囲で 見ないといけないのではないか。全ての対象事業を同じような範囲で区切ると、 大き過ぎるとか小さ過ぎるということになるかもしれない。</p>
委員	<p>「◎」や「△」といった取組評価は、外部点検の結果に対してどの程度応えて いるのかという評価であると認識している。委員が提示した方針で必ず取りま まないといけない訳ではなく、それをきっかけとして、別の方針で取り組んだとい うこともありえると思うが、結果として、その事業がどれくらい達成したかとい うことについて、もう少し見えるとよい。新しい取組をしたことも成果ではある が、数値や利用状況を記載してはどうか。例えば、No. 43「中央卸売市場活性化 事業」では、一般の利用状況はどれくらいあるのかなど、点検結果の方向とは異 なるが、成果をあげていることが分かるとよい。ある程度、数についてアピール して記載しておかないと、取組評価を行うのは難しいと思う。努めているとか、 推進しているといった表現はよくないと言われ続けているので、実態が見える記 載内容にシフトしてほしい。</p> <p>また、事業を改善する際に、他の部署との連携を行うなど、今回記載されてい ない効果や改善もあったのではないかと思う。そういった事業外のことも成果と してあるのではないかと思うので、評価の観点として入れてはどうか。</p>
委員長	<p>数値のエビデンスはいたるところで求められるが、表し難いものもある。ただ、 今回の資料を見ていると、数値であげられるのではないかと見受けられるものも あった。</p>
委員	<p>No. 39「地域特産物振興事業」では、点検結果は「縮小」だが、予算は約 4 倍 となっている。その理由や必然性について、担当所属に確認はしているのか。</p>
事務局	<p>担当所属は、当時の点検結果を踏まえて資料を作成しており、「△」の取組評 価となっていることも承知している。しかしながら、予算の比較の細かい経緯ま では総合政策課では把握出来ていない。</p>
委員	<p>No. 13「防災センター啓発事業」と、No. 14「防災センター運営事業」は、年度 を跨いで点検しているが、区別がつきにくい。点検をするとしたら、同じ年度に</p>

事務局	<p>やった方がよかったのではないか。</p> <p>過去に点検事業を選定する上で、そういった問題もあった。小さい事業の単位で見ることが要因の一つとなっており、今後どのように事業を抽出していくかについても意見をいただければと思う。</p>
委員長	<p>今ほどの委員の意見は、反省材料として捉え、次年度以降の参考にし、盛り込んでいくことと思う。</p> <p>「△」の取組評価となった事業については、委員もすっきりしないところはあるかもしれないが、次の外部点検の対象にするという意見もあるかもしれない。その場合、点検対象を大きく捉え、その中で見ていくようなことも可能だと思われる。</p>
委員長	<p>協議事項（2）事務事業点検（外部点検）の今後について 資料 2</p> <p>議論に先立ち、次期行財政改革指針で目指すこととして、「質の高い行政運営」とあり、「質」という言葉が全面的に出てきているが、この部分について、これからの外部点検を考える視点につなげるため、説明してほしい。</p>
事務局	<p>今までの行政改革は、「効率化」や「削減」といった方向だった。しかし、今後は、人や予算を削っていくだけでは対応出来ないこともあり、そういった中で市民サービスにどう応えていくかを考えると、「効率化」や「削減」といった視点ばかりではないと思っている。サービスをしっかり提供するため、質の向上によって対応していくということである。</p>
委員長	<p>予算を増やさなくても、質を高められる可能性はある。ただ、そのためには行政職員のレベルアップも必要である。</p> <p>これまでの外部点検の進め方として、1時間の中で10分説明を聞いて、質疑応答をし、その後、委員の協議をして、結論を出すという方法は本当にエネルギーが必要であった。1日に4事業を行った際は、とても大変であった。</p>
委員	<p>その4事業については、事業の目的は一致しているものなのか。この総括を見ると、点検を受けた事業の方向性はバラバラであり、本来は事業の方向性を踏まえた事業の選定を行い、似通っている事業をどうしていくか見ないといけない。今までの単位で一つひとつの事業を点検しても、良い悪しの判断は不可能だと思う。例えば、観光PRといった観点から事業をすくい上げて、その中であがってきた事業について、どのように取り組んでいくかを点検することが、効果的効率的で質の高い行政運営につながるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>まさにそういった反省点が、何人かの委員から出されている。</p>

委員	<p>この年はこの部局を点検するというやり方にすれば実現できるが、今までの点検では、点検の対象所属の負担が大きくなることから、所属ごとに1事業ずつ、まれに2つということもあったが、事務局で件数を制限していたため、今ほどの意見とは逆行している。そこは、行政においてどうするか考えてほしい。</p> <p>例えば、ある年には波の華温泉の現場を見に行ったが、観光施設と言いながら、毎年赤字を出していた。今は改善されているが、当時の点検があったから、今があると思える。今は業務委託をし、食事も出来るようになったが、5年前はお風呂に入るだけの施設であり、お湯はガラガラ山から毎日運ぶという運営をしていた。徹底的に改善して、今は良くなっている。そういったものが本当に成果のあがっているものであり、委員長が言ったように1日に4つ点検をして、ただ点検をしたというだけでは効果が出ない。結果を出すには、時間を十分にかけるか、部局を決めて年ごとに徹底してやらないといけないのではないか。</p>
委員	<p>外部点検の役割だが、テーマで行うことも大事で、その切り口は今まで行政が弱かった部分だと思うが、そうすると、行政自らによる内部点検のやり方から変えないと、外部点検でのフォローもしづらと思う。今までの内部点検でテーマ別に見るというやり方をしているかは分からないが、そういうやり方をしていれば、外部点検でもチェックはしやすい。しかし、今までのやり方を続ける中で、外部点検だけやり方を変えるというのは、荷が重い部分もあると思う。</p>
事務局	<p>行政内部での点検については、平成23年度より全事業を対象とした各所属による自己点検を行った上で、外部点検を行ってきた。しかし、今回外部点検としての指摘でもあったように、あまりにも細か過ぎて、仕事のための作業になっていた。現在は事業の進捗管理や評価について、「部局マネジメント方針」において数値目標を設定し、毎年厳しく見ている。外部点検だけが細かい事業単位で残っており、細か過ぎるとか、全体が見えにくいといった弊害が出てきている。</p>
委員長	<p>そういった意味では、内部点検の見直しや改善も同じ方向を向いているということである。</p> <p>外部点検そのものについての、職員の受け止め方、行政組織での位置づけはどうか。金福すいかなど、担当所属が結果に対して素直に受け止めていないような印象で、不信感がある。そういった意味で、職員の意識が、外部点検、内部点検の結果について謙虚に受け止めて、改善していくという土壌がないといくら点検してもよくなる。その辺りはいかがか。</p>
事務局	<p>点検結果については、毎年度「外部点検結果に基づく対応」としてまとめており、市長まで説明をし、その結果を踏まえて財政の予算査定にも反映する流れとなっている。当然、部局においても点検結果は重く捉えているのは間違いない。しかし、金福すいかを例にあげると、点検結果と、市全体としてどう取り組んでいくかが同じ方向を向いていないものもあり、全てが点検結果に向かかという、そうでない事業もあるところである。</p>

事務局	<p>委員と福井市が同じ方向を向いている事業の場合は、噛み合わないということではなかった。しかし、金福すいかについては、市は特産物として伸ばしていき、そのために若手の就労者を育成したいということだったが、十分な意思疎通が図れず、不信感につながっているのかと思う。その辺りは、改善していかなければいけないと思っている。</p>
委員	<p>2年前に行った、No. 49「ボトル水販売・宣伝啓蒙事業」について、点検を始める前は委員としては事業をやめればよいと思っていたが、担当所属の話を聞き、熱心に事業の説明をされたことで、委員の観点が180度変わり、「拡大」の点検結果となった。委員は、決して何でも削減しようと思ってやっているのではなく、事業の目的や意味を十分に教えてもらえれば、これはこうした方がいいという提案をすることが出来る。そういうところを、総合政策課から担当所属へ伝えてほしい。</p>
委員長	<p>プレゼンテーションがただ上手いということと、熱意や意欲が伝わるプレゼンテーションとでは、委員の方で違いを感じる。ただ上手いだけの説明には疑問が残る。それが、職員の質ということである。</p>
委員	<p>委員の立場が、担当所属からどう思われているのかということだが、No. 2「地域バス整備事業」を例に挙げる。本事業では、美山や越廼地区の児童は、通学の際に無料でバスに乗っている。資料だけを読むと、福井市内で無料と有料の児童がいると見受けられ、有料のところは親が負担しているのかと思い、学校教育課に問合せたところ、学校教育課の予算で補助をしていると分かった。そのように、委員が何か疑問に思った場合、直接担当所属に問合せをし、外部点検委員としてしっかり対応をしてもらえるのかということである。そういったところをしっかりと出来るようにしてもらえるとよい。</p>
委員長	<p>委員が動きやすい環境を作ってほしい。</p>
事務局	<p>担当所属に直接聞いてもらうことは問題ないが、それよりも事務局を通してもらった方が責任を持った対応が出来るかと思う。</p>
委員	<p>事務局の負担が増えるのではないか。</p>
事務局	<p>例えば、事務局から話だけ通しておいて、その後直接やり取りをしてもらおうということも出来る。</p>
委員	<p>事業そのものの内容や範囲を点検で見えてきたが、どこが担当しているのかという組織の問題が気になった。そもそも、外部点検は組織マネジメントのようなところまで踏み込めるのか、それとも、事業内容のアイデアや意見に止まるのか、</p>

	その辺りをどう判断すればいいのか。
事務局	点検の中で、この事業は別の所属が取り組めばよいのではないかという意見も今まであったし、見てもらって問題ない。
委員長	組織マネジメントの本流は行政主導でなされるが、市民の目線から見るのはよい。
委員	No.9「消費生活モニター事業」について、事業目的があまり分からなかった。情報収集が目的なのか、かしこい消費者の育成が目的なのか。
事務局	最終的には、かしこい消費者の育成が目的である。その目的を達成するため、情報収集などの取組をしている。
委員	情報収集は26品目で、消費生活モニターは25名だが、この数字が妥当かどうか疑問に思った。もし、マーケティング調査が目的であったのなら、母数が少ないと思った。商品開発マーケティングの専門的な研修を行っているのだが、そういった視点から見ると、母数は最低60人必要というところである。この25名が、育成であれば問題ないが、情報収集の観点であれば増やした方がいいと思った。
委員	委員になったのが今年度からということもあり、点検の進め方を理解していなかった状態でボリュームのある資料が届いた。今日の委員会を通して、点検について理解することが出来たが、このような資料が委員会の直前に届くとどうしていいのか分からなかった。読むにしても相当な時間がかかってしまう。おそらく、これからの点検でも資料が事前に送られてきて、委員はしっかり読み込んでくる必要があると思っているが、早めに送ってほしい。自分たち委員が、重い責任を負っていることを感じた。
事務局	資料については出来るだけ早くと思っはいるが、今回はボリュームもあり、各所属とのやり取りも直前まで行い、遅くなってしまった。今後、資料については出来るだけ早く送るということを念頭に置きたい。
委員	資料2に市民ニーズという表現があるが、何をもって市民ニーズと捉えているのか。アンケート結果か何かを踏まえたものなのか。
事務局	市民ニーズを把握するには、色々な手法がある。個別アンケートもあれば、毎年行っている市民意識調査も手法としてある。市政出前講座の人気テーマもそうであり、一般的な考え方であれば、例えば、窓口の一本化というのも共通のニーズである。今ほど挙げたような色々な手法によって、把握をしなければならないと考えている。

委員長	<p>全てにおいて、こういったニーズを把握したから、それに基づいて施策を行っているという説明は難しい。ただ、委員が疑問に思った場合は、何に基づいて施策を行っているかを質問してほしい。</p>
委員長	<p>外部点検のあり方については、本日の委員会での意見を踏まえて、次回の委員会にておはかりしたい。委員長と事務局で整理し、提案したい。</p> <p>協議事項 (3) その他</p> <p>第3回委員会は、11月15日(火)午後3時30分からとする。</p>
委員長	<p>これで協議を終了する。</p>